

令和 4 年度 事業報告・決算報告

自 令和 3 年 4 月 1 日

至 令和 4 年 3 月 31 日



令和 4 年 5 月 28 日 (土)

N P O 法人 川に学ぶ体験活動協議会

令和3年度 NPO 法人川に学ぶ体験活動協議会 事業報告書（案）

1. 総括

令和3年度も引き続きコロナ禍の猛威でRACもなかなか事業を行うことが出来なかった。RACの会員団体も思うように体験活動が出来なかった状況にある。そのような状況下でも東北の仙台市ではハイブリット講座（WEBの座学と実習）が開催され、保育園の先生が川の指導者資格を取得した。

今年の全国大会及びフォーラムについては、残念なことにWEBになってしまった。今後、WEB講座と実習を組み合わせる講座ができるように模索する必要がある。このような状況下でも7月に信濃川のやすらぎ堤で、川の指導者講習会が開催された。参加者は行政や市の関係者、イベント業者など20名近くが受講した。来年度の全国大会は東京での開催である。東京から川の安全や体験活動などを全国に発信できることを期待している。



写真1. 新潟県信濃川やすらぎ堤講習会

(1) 会員の入会状況

種別 会員区分	団 体		個 人	
	R2	R3	R2	R3
正会員	71	70	2	2
一般会員	31	30	2	1
賛助会員			0	1
計	102	100	4	5

(R4年3月31日現在)

2. 会議

- (1) 理事会 — 令和2年度の活動報告・会計報告、令和3年度の活動計画・収支予算等について審議の上議決した。

[開催日時] 令和3年5月29日(土) 13:30~14:30 /WEB会議

- (2) 総会 — 令和元年度の活動報告・会計報告、令和2年度の活動計画、収支予算等についての報告及び役員を選任を議決した。

[開催日時] 令和3年5月29日(土) 14:30~17:00 /WEB会議

- (3) 常任理事会 — 業務執行に関する検討や講座及び資格の認定審査を行った他、下記の日程で業務進捗状況、財政状況の確認等を行った。

[実施日]	第1回	令和3年4月8日
	第2回	〃 5月11日
	第3回	〃 8月24日
	第4回	〃 8月26日
	第5回	〃 11月9日
	第6回	令和4年1月28日
[場所]	ZOOM会議	

(4) 専門部会・委員会

下記の専門部会ごとに主な事業を推進した。

① 企画総務部会

コロナ禍により、常任理事会は全てWEB開催となった。全国大会は令和3年9月にWEBで、RACフォーラムは令和4年3月に岐阜を拠点としてWEBにて開催することができた。RACホームページについてアクセス改善のための変更作業を行った。(近くアップ予定)本年度から、主として事務局の負担軽減とミス排除のため会計士と契約をして会計作業を行った。

② 人材育成部会

コロナ禍でしたが十分な配慮の上、何件かの対面での実施もできました。しかし、全般的に講座実施が難しいのも現実でした。会員団体によってはいろんな配慮や工夫で実施をしているところもありました。自然体験活動団体の協同によりプログラム実施のためガイドラインを定めて活動の指針となるよう対処してきました。

- ・新しい付加資格「シャワークライミングガイド養成会」の普及
- ・トレーナー更新会、トレーナー会議で課題の共有と解決の話し合い(ZOOM開催)
- ・RACフォーラムを支援し、同様の団体との連携に向けてのステップをつくる
- ・アシスタントリーダーからOJTを使いリーダーへの移行の道筋をつける

③ 学校連携部会

WEBを用いて5回の会議を行い、以下の内容を実施した。

- ・学校連携の実態をアンケート調査し、学校と連携する難しさは教科や総合のカリキュラムに提案する必要があることを明らかにした。
- ・学校連携の意義は、全ての児童に河川教育を行うことができることであり、学習内容を示して理解を促す必要があると整理した。
- ・「学校連携コーディネーター」講習のプログラムを修正し、プロジェクトWET学校バージョンを受講することをOJTを短縮し、基礎、応用、専修コースの資格を取りやすくした。学校連携コーディネーターの資格証を示し、プログラムを提案することができる様にした。

(別紙参照)

④ 組織強化部会

広報・営業ツールなどを検討する予定でいたがコロナ禍もあり具体的な行動ができていなかった。

全国大会やフォーラムの会員向け行事を外部へのアピールする場として機能させることにより、川の体験活動やRACのことをより広く知ってもらえるようにする方策について検討した。

(5) 専門委員会

① 審査認定委員会

・講座開催審査や支援条件整理、指導者修了確認・認定等を行った。

② 安全対策委員会

・水辺体験活動での事故等の発生防止に向けて講座等の実施体制等を注視した。

3. 川の指導者養成等

RAC アシスタントリーダー養成講座が開始されてから5年が過ぎた。今年もコロナ禍の中でも6講座開催された。また、リーダー養成講座もコロナ禍の中7講座が開催された。今後、全国の川の楽しさや身の守り方を伝えるため来年度に向けて、川の指導者数を増やすことが課題であるが、コロナ禍の中でどのような講座ができるのか模索する必要がある。例として座学をWEB講座で開催して川の実習を現場で行うなど住み分けが必要である。



写真2. 「RACリーダー講習会」青森県大畑川

(1) RAC指導者講座の開催

各指導者養成団体で必要とされる川の指導者の養成講座を、全国各地の河川において展開した。RACリーダー養成講座については全国各地で6回開催した。また、アシスタントリーダーについては7回開催した。



写真3. 「リーダー講座（鹿児島県川内川）」

【各種講座開催及び修了状況】

種別 年度	RAC アシスタントリーダー（基礎講座）		RAC 学校リーダー※1		リーダー		インストラクター（Ⅰ）		コーディネーター（インストラクターⅡ）		トレーナー	
	講座数	修了者数	講座数	修了者数	講座数	修了者数	講座数	修了者数	講座数	修了者数	講座数	修了者数
H13(2001)	(12)	(966)			5	52						
H14(2002)	(3)	(83)			15	528	5	126			暫定	24
H15(2003)	(4)	(10)			24	446	3	52			1	17
H16(2004)	(1)	(14)			26	387	3	32			2	16
H17(2005)	(0)	(0)			27	266	3	25	0		1	14
H18(2006)	(2)	(49)			27	207	3	22	1	4	1	9
H19(2007)	(6)	(141)			25	376	0	0	0	0	0	0
H20(2008)	(3)	(38)			26	319	2	0	0	0	0	0
H21(2009)	(4)	(22)			33	334	4	48	0	0	0	0
H22(2010)	(1)	(12)			35	338	2	22	2	6	1	6
H23(2011)	(0)	(0)			33	287	5	43	0	0	1	4
H24(2012)	(3)	(26)			26	234	3	12	1	7	1	4
H25(2013)	1	7			18	168	0	0	0	0	1	1
H26(2014)	2	25	3	25	14	131	0	0	2	10	1	2
H27(2015)	5	85	1	10	16	124	0	0	0	0	1	6
H28(2016)	7	78	0	0	14	127	0	0	0	0	0	0
H29(2017)	13	85	1	13	13	108	1	2	0	0	0	0
H30(2018)	10	56	1	0	13	105	0	0	0	0	1	5
R1(2019)	10	70	0	0	14	86	0	0	0	0	1	5
R2(2020)	6	26	0	0	8	62	0	0	0	0	0	0
R3(2021)	6	33	0	0	7	41	0	0	0	0	0	0
計	99	1826	6	48	419	4751	34	384	6	27	13	113

※1 RAC アシスタントリーダーは H25 までは基礎講座の講座数及び修了者

(2) 付加資格関連講座・専任講師養成講座の展開

昨年に引き続き令和 3 年度はコロナ禍のため、各地域での講座開催がとてまもなくなくなってしまった。そのような状況下でも、E ポート指導者講習会については活発に講座が開催された。新しい講座のシャワーライミング講座についてはまだまだ未完成の講座であるが、令和 3 年度は全国 3 か所で開催され 24 名が資格を取得した。

【付加資格講座開催一覧】

種別 年度	水辺のリスク マネジメント講座		水辺のリスク マネジメント 専任講師養成		水辺のレスキュー 講習		水辺のレスキュー 専任講師養成		Eボート指導者		Eボート指導者 専任講師養成	
	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者
H20(2008)	10	180	4	67								
H21(2009)	6	64			3	18	5	24	3	36	4	27
H22(2010)	2	28			3	16			3	26		
H23(2011)	4	51			8	77	1	3	6	68	1	3
H24(2012)	3	31			5	29			9	90	3	9
H25(2013)	4	42	—	—	5	41	—	—	11	115	2	10
H26(2014)	4	18			2	27	0	0	8	71		
H27(2015)	2	11			1	12			14	84		
H28(2016)	3	21			1	16	2		6	38		
H29(2017)	1	21			2	31	3	16	5	41		
H30(2018)	2	19	0	0	1	11	0	0	4	23	0	0
R1(2019)	1	6	0	0	3	23	0	0	3	16	0	0
R2(2020)	0	0	0	0	1	11	0	0	1	6	0	0
R3(2021)	4	23	0	0	1	11	0	0	6	37	1	5
計	46	515	4	67	36	323	11	43	79	651	11	54

種別 年度	水辺のファースト エイド講習		水辺のファースト エイド講習 専任講師養成		RAC 水辺の生き 物講習会		学校連携コーディネーター養成講座					
	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者	(基礎課程))		(応用課程)		(専修課程)	
	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者
H24(2012)	1	15	1	(11)								
H25(2013)	4	42	—	—	1	3	1	16	1	9		
H26(2014)	3		1		0	0	3	34	0	0		
H27(2015)	1	20					1	10	1	3		
H28(2016)							1	7			1	3
H29(2017)	0	0	0	0	1	2	1	4	0	0	0	0
H30(2018)	0	0	0	0	0	0	1	5	0	0	0	0
R1(2019)	0	0	0	0	0	0	1	5	0	0	0	0
R2(2020)	1	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R3(2021)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	10	85	1	(11)	2	5	9	81	2	※12	1	3

※修了実習待ち含む。

種別 年度	シャワークライミング講座	
	講座数	修了者
H30(2018)	-	-
R1(2019)	-	-
R2(2020)	1	40
R3(2021)	3	25
計	4	65

(3) 付加資格について

令和3年度は昨年、新しくできたシャワークライミング講座を早速、岐阜県、岩手県、宮城県の3件3団体が開催した。25名の登録があった。今年度はEボート指導者講座も6講座、Eボート専任講座も1講座開催した。座学のみで3時間で開催できるリスクマネジメント講座についても4講座の開催があった。



写真4. Eボート指導者講座（利根川）



写真5. シャワークライミング講座（前川）

4. 全国大会等

(1) 第20回川に学ぶ体験活動全国大会 in 小川原湖

令和3年度が対面で開催できると予想していたが、昨年延期した全国大会であるが、今年もやはりコロナが落ち着かず、令和3年9月19日にEBでの開催になった。初めてのWEB開催であったためにいろいろな手違いがあったが、今後WEB講座開催などのためとても良い勉強になった。

当法人の団体である環境文化研究所の田中氏を司会に基調講演は前RAC事務局長の齋藤隆氏からの「斉藤流川のとりせつ」と題して自分が実際に体験をしたことや実際に自分が行って泳いだ川などの話をしていただいた。

オープニングセレモニーについては東北町甲地小学校の寸劇(ビデオ)が放映された。国土交通省河川環境課長からの来賓のご挨拶をいただき、全国大会がスタートした。



写真8. カワラバン広瀬川での活動の発表していただいた。

パネルディスカッションについては澤目氏、菅原氏、長谷川氏の3名がパネラーとして参加。アドバイザーとして齋藤氏、また、コーディネーターを相馬氏が務めた。流域などの話もでた。その後、各地に伝わる水と食文化のつながりと称して青森県からはシジミ汁、山形県からは「鮭川村地域おこし協力隊」の松並氏から鮭の食文化などについてのお話しをしていただいた。

最後にまとめとして東京大学大学院の福永先生より水と食文化についてのまとめを行った。



写真7. 斉藤流川のトリセツPP

齋藤氏の話は多岐にわたり環境についてのお話しもしていただきとても興味深い基調講演であった。

事例発表では甲地小学校の澤目先生から小学校での川の活動の発表をしていただいた。宮城県仙台市の「カワラバン」の菅原氏からは保育園の先生を中心に指導者講座を開催したり、地域の小学校との連携の話していただいた。また、神奈川県鎌倉市の「地球の楽校」の長谷川氏より鎌倉での竹林問題をはじめ環境教育について



写真9. 鮭の種類など

(2) 第19回RACフォーラム等の開催

令和3年度についても、コロナの影響で令和4年3月5日(土)WEB開催となった。しかしながら岐阜県にサテライトスタジオを設けて講師の方々や事例発表者についてはサテライトに集まり昨年よりは少し、対面に近い形で開催された。「教育」と「安全」についてテーマに開催した。

今年度は子どもの河川教育の強化など小学校との連携についてのお話し及び事例発表を現役の学校の先生方にいただいた。

基調講演については当法人の理事でもある金沢緑氏より学校との連携として指導者と学校などについてのお話しをしていただいた。また、最近、アウトドアブームでSUPなどの利用者が増え水辺の水難事故について協議も行った。

学校連携コーディネーター		RACリーダー資格
講座名称	座学	OJT
基礎課程	3h	学校活動8h以上 or エドゥケーター講習会受講+レポート提出
応用課程	3h	学校活動8h以上 or 学校連携ファシリテーター講習会受講+実践計画提出(3単元)
専修課程	4.5h	学校活動 納得がいくまで何度でも or プロジェクトWET学校連携Ver.5講座受講



写真 10. 基調講演より学校連携コーディネーター

分科会①では福山市立広瀬小学校の藤江先生、岐阜県笠松小学校の松原先生、カムギプロジェクト実行委員会の河合氏より事例発表を行った後に議論が交わされました。また、分科会②では河川財団の菅原氏、ラフティング協会の梅本氏、セフティカヌーイング協会の山口氏、日本SUP協会の岸氏より水難事故を防止するにはどうしたら良いのかなど、協議された。

最後に当法人の佐藤繁一氏よりまとめが行われた。

5. 調査検討事業

(1) 調査検討業務

今年度はコロナの流行で河川事務所からの事業は1事業のみであった。しかしながらコロナ感染症に十分に注意をして河川敷のテントで開催された。令和3年7月14日にやすらぎ堤でリスクマネジメント講座及びEボート体験を行った。やすらぎ堤のスノーピークのテントサイトを使って座学を行い、午後Eボート乗船会を開催した。参加者は一般の事業者及び行政、河川管理者含めて23名の参加があった。また、河川財団より動画撮影のサポートの依頼があり10月



写真 12. やすらぎ堤講習会

4日に青梅市の多摩川河川敷での撮影を行った。ライフジャケットの着方や川からどのくらい離れたらライフジャケットを着た方がよいかなどの目安の撮影を行った。

(2) 川育関連事業

今年はコロナ禍で見附市の防災キャンプは行われなかった。

6. 広報・普及活動

(1) 川育ライフジャケット認定制度の普及

これまで我が国には「川遊び用のライフジャケットとして推奨できる安全基準」や「試験・認定制度」が存在していなかったが、RACでは「川という自然環境下での体験活動に適した安全基準として、「RAC川育ライフジャケット認定ガイドライン」を昨年度関係各機関の協力のもと構築した。平成31年3月現在、12種類の製品が認定を受け、水辺シーズンを中心に全国各地の大型スポーツ用品店や、ホームセンター等で提供が継続している。

令和3年度末にキヌガワから新たなライフジャケットの申請が2種類提出され、認定を行った。

(2) 広報活動

- ・メールマガジン「RAC-NEWS」を随時回発行した。また、Facebookなども活用して情報発信を行った。
- ・RACホームページを随時更新した。

(3) 川の指導者の道具

より安全な水辺の体験活動を普及するために、川遊びに特化して開発したライフジャケットの普及を行った。また、令和3年度はグラブナー社のEボートが6艇販売できた。しかしながら、コロナ禍やウクライナとロシアの影響を受けて、入荷がされないまま年度を越している。

レンタル業務では、コロナ禍の影響で大幅にダウンをしている。2018年度にくらべて4分の1程度に落ち込んでいる。川の指導者団体も活動が出来ていない状況であると考えられる。しかしながら2020年度よりは2021年の方が少し延びている。このまま、コロナが落ち着けばもっと川に子どもたちや人々が行くことが予想されて大幅にレンタルが増えると考えられる。

【RAC 機材一覧】

No.	資機材名	数	単位	備考
1	ライフジャケット（幼児用）	30	着	
2	ライフジャケット（低学年用）	132	着	今年度50着購入
3	ライフジャケット（子ども用）	543	着	
4	ライフジャケット（大人用）	202	着	
5	ライフジャケット（プロ用）	14	着	
6	ヘルメット（子ども用）	95	個	

No.	資機材名	数	単位	備考
7	ヘルメット (大人用)	132	個	
8	スローロープ (15m)	12	本	
9	スローロープ (20m)	23	本	
10	E ボート	11	艇	グラブナー社 G タイプ
11	ポンプ	16	個	
12	パドル	110	本	一部スチール
13	ウェットスーツ	70	着	

【R3 レンタル状況】

PFD	ヘルメット	スローバック	E ボート
599	237	19	1

※自主事業利用含

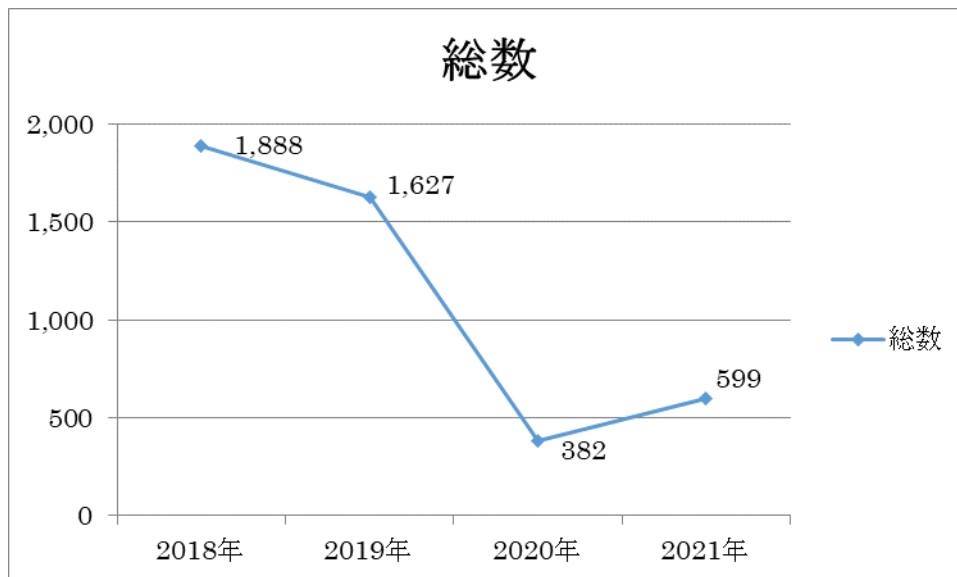


表1. ライフジャケットレンタル状況

Grabner社製 Eボート



定員 10名程度 (最大積載重量 約1.0t)
 サイズ 縦 6.5m 横 1.4m
 (収納サイズ 約0.9m×0.6m×0.4m)
 重量 約60Kg カラー 赤×黒
 部品構成 本体 (3気室) +シート6コ
 主要素材 ゴム製のインフレータータイプ
 (1100 dtex EPDMゴム)

7. その他

(1) 水辺体験イベント等

令和3年度もコロナ禍の中、千葉県佐原市の水の郷さわらでEボートの乗船会を行い利根川閘門の通船体験を行った。東京ではミズベリング関連で江東区の汐濱運河での令和3年12月3日にEボートレース大会のサポートを行った。5の団体が参加して順位を競っていた。

また、名古屋の揖斐川では行政の方々を対象に水辺の安全講座を開催した。11月12日に三重県桑名市の揖斐川の柿安コミュニティーパークで安全講座を行った。Eボート4艇に揖斐川の乗船体験を行った。

東京観光財団の動画撮影のために旧中川での「プラスチックボトルフィッシング」の撮影なども行った。



(2) 河川協力団体

・荒川下流事務所・利根川下流事務所の河川協力団体関連事業として、荒川（旧中川）ではEボートクルーズの運行、また、利根川下流域（小見川）では佐原でのEボートレースの安全講習や運営協力を行った。

活動計算書

令和 3年 4月 1日 から令和 4年 3月 31日 まで

特定非営利活動法人 川に学ぶ体験活動協議会

(単位：円)

科 目	金 額		
I 経常収益			
1. 受取会費			
RAC会費収入	1,580,000	1,580,000	
2. 受取助成金等			
公益財団等助成金	858,631	858,631	
3. 事業収益			
講習会等事業収入	2,301,359		
グッズ等著作事業収入	5,751,410		
資機材点検収入	181,709		
受託業務収入	5,863,275		
値引・戻り高	△ 30,659	14,067,094	
4. その他収益			
受取利息	174	174	
経常収益計			16,505,899
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
給料手当	4,953,960		
法定福利費	623,818		
人件費計	5,577,778		
(2) その他経費			
期首棚卸高	2,072,448		
グッズ等仕入高	1,700,501		
合計	3,772,949		
期末棚卸高	△ 60,800		
売上原価	3,712,149		
業務委託費	1,497,454		
諸謝金	177,500		
印刷製本費	576,139		
会議費	43,713		
旅費交通費	403,733		
通信運搬費	200,805		
消耗品費	121,619		
賃借料	63,000		
諸会費	30,000		
租税公課	2,200		
研修費	9,000		
支払手数料	3,090		
雑費	52,009		
その他経費計	6,892,411		
事業費計		12,470,189	
2. 管理費			
(1) 人件費			
給料手当	624,000		
賞与	724,334		
退職給付費用	60,000		
人件費計	1,408,334		
(2) その他経費			
会議費	2,592		
旅費交通費	73,943		
通信運搬費	227,912		
消耗品費	34,190		
水道光熱費	140,135		
地代家賃	801,600		
保険料	54,967		
租税公課	571,900		
支払手数料	2,538		
謝金	139,000		
委託管理諸費	864,600		
雑費	13,878		
その他経費計	2,927,255		
管理費計		4,335,589	
経常費用計			16,805,778
当期経常増減額			△ 299,879

III 経常外収益			
1. 過年度損益修正益			
過年度損益修正益	451,300	451,300	
2. その他経常外収益			
雑収入	12,579	12,579	
経常外収益計			463,879
IV 経常外費用			
経常外費用計			0
税引前当期正味財産増減額			164,000
法人税、住民税及び事業税			70,016
過年度法人税等			10,000
当期正味財産増減額			83,984
前期繰越正味財産額			16,725,075
次期繰越正味財産額			16,809,059

活動計算書

令和 3年 4月 1日 から令和 4年 3月 31日 まで

特定非営利活動法人 川に学ぶ体験活動協議会

(単位：円)

科 目	特定非営利活動事業	収益事業	合計
I 経常収益			
1. 受取会費			
RAC会費収入	1,580,000	0	1,580,000
2. 受取助成金等			
公益財団等助成金	858,631	0	858,631
3. 事業収益			
講習会等事業収入	2,301,359	0	2,301,359
グッズ等著作事業収入	0	5,751,410	5,751,410
資機材点検収入	0	181,709	181,709
受託業務収入	0	5,863,275	5,863,275
値引・戻り高	△ 0	△ 30,659	△ 30,659
4. その他収益			
受取利息	174	0	174
経常収益計	4,740,164	11,765,735	16,505,899
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
給料手当	685,494	4,268,466	4,953,960
法定福利費	0	623,818	623,818
人件費計	685,494	4,892,284	5,577,778
(2) その他経費			
期首棚卸高	0	2,072,448	2,072,448
グッズ等仕入高	0	1,700,501	1,700,501
合計	0	3,772,949	3,772,949
期末棚卸高	△ 0	△ 60,800	△ 60,800
売上原価	0	3,712,149	3,712,149
業務委託費	542,622	954,832	1,497,454
諸謝金	0	177,500	177,500
印刷製本費	572,729	3,410	576,139
会議費	4,752	38,961	43,713
旅費交通費	77,882	325,851	403,733
通信運搬費	12,950	187,855	200,805
消耗品費	3,000	118,619	121,619
賃借料	20,000	43,000	63,000
諸会費	30,000	0	30,000
租税公課	0	2,200	2,200
研修費	9,000	0	9,000
支払手数料	262	2,828	3,090
雑費	2,765	49,244	52,009
その他経費計	1,275,962	5,616,449	6,892,411
事業費計	1,961,456	10,508,733	12,470,189
2. 管理費			
(1) 人件費			
給料手当	179,200	444,800	624,000
賞与	208,014	516,320	724,334
退職給付費用	17,231	42,769	60,000
人件費計	404,445	1,003,889	1,408,334
(2) その他経費			
会議費	744	1,848	2,592
旅費交通費	21,235	52,708	73,943
通信運搬費	65,452	162,460	227,912
消耗品費	9,819	24,371	34,190
水道光熱費	40,244	99,891	140,135
地代家賃	230,203	571,397	801,600
保険料	15,785	39,182	54,967
租税公課	164,242	407,658	571,900
支払手数料	729	1,809	2,538
謝金	39,918	99,082	139,000
委託管理諸費	248,296	616,304	864,600
雑費	3,985	9,893	13,878
その他経費計	840,652	2,086,603	2,927,255
管理費計	1,245,097	3,090,492	4,335,589
経常費用計	3,206,553	13,599,225	16,805,778
当期経常増減額	1,533,611	△ 1,833,490	△ 299,879

III 経常外収益			
1. 過年度損益修正益			
過年度損益修正益	136,980	314,320	451,300
2. その他経常外収益			
雑収入	12,579	0	12,579
経常外収益計	149,559	314,320	463,879
IV 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
税引前当期正味財産増減額	1,683,170	△ 1,519,170	164,000
法人税、住民税及び事業税	16	70,000	70,016
過年度法人税等	0	10,000	10,000
当期正味財産増減額	1,683,154	△ 1,599,170	83,984
前期繰越正味財産額	5,818,826	10,906,249	16,725,075
次期繰越正味財産額	7,501,980	9,307,079	16,809,059

貸借対照表

令和 4年 3月 31日 現在

特定非営利活動法人 川に学ぶ体験活動協議会

(単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	16,035,858		
未収金	5,624,635		
棚卸資産	306,530		
前払費用	120,000		
仮払金	50,000		
流動資産合計		22,137,023	
2. 固定資産			
(1) 有形固定資産			
什器備品	5		
有形固定資産計	5		
(2) 無形固定資産			
無形固定資産計	0		
(3) 投資その他の資産			
特定資産	3,186,320		
投資その他の資産計	3,186,320		
固定資産合計		3,186,325	
資産合計			25,323,348
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	1,977,471		
未払消費税等	569,700		
未払法人税等	70,000		
前受金	3,826,400		
預り金	570,718		
流動負債合計		7,014,289	
2. 固定負債			
退職給付引当金	1,500,000		
固定負債合計		1,500,000	
負債合計			8,514,289
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		16,725,075	
当期正味財産増減額		83,984	
正味財産合計			16,809,059
負債及び正味財産合計			25,323,348

財 産 目 録
令和 4年 3月 31日 現在

特定非営利活動法人 川に学ぶ体験活動協議会
(単位：円)

科 目		金 額		
I 資産の部				
1. 流動資産				
現金預金	小口現金	100,593	16,035,858	
	ゆうちょ銀行(当座) 55413	466,970		
	ジャパンネット銀行 1248076	1,476,807		
	ジャパンネット銀行 1248050	3,539,011		
	三菱UFJ 3533078	35,662		
	三菱UFJ 3537442	900		
	ゆうちょ銀行 10100-890597	1,423,303		
	楽天銀行 7164758	8,991,846		
	住信SBIネット銀行	766		
未収金	河川財団(川の指導者養成事業)	3,520,000	5,624,635	
	河川財団(木曾川下流河川)	1,622,500		
	株AAB(撮影支援)	102,135		
	未収会費 R1	50,000		
	未収会費 R2	90,000		
	未収会費 R3	240,000		
棚卸資産			306,530	
前払費用	令和4年4月分家賃		120,000	
仮払金			50,000	
流動資産合計			22,137,023	
2. 固定資産				
(1) 有形固定資産				
	什器備品		5	
	有形固定資産計		5	
(2) 無形固定資産				
	無形固定資産計		0	
(3) 投資その他の資産				
特定資産	調査研究基金 三菱UFJ 1049895	2,000,759	3,186,320	
	退職給与積立 三菱UFJ 1049903	1,215,561		
投資その他の資産計			3,186,320	
固定資産合計			3,186,325	
資産合計				25,323,348
II 負債の部				
1. 流動負債				
未払金	令和4年3月賃金等	518,812	1,977,471	
	株クウォーター 3月商品仕入	1,017,599		
	早川法律事務所	330,000		
	業務委託報酬その他	111,060		
未払消費税等			569,700	
未払法人税等			70,000	
前受金	Eポート販売前受	3,146,400	3,826,400	
	令和4年度会費	680,000		
預り金			570,718	
流動負債合計			7,014,289	
2. 固定負債				
退職給付引当金			1,500,000	
固定負債合計			1,500,000	
負債合計				8,514,289
正味財産				16,809,059

特定非営利活動法人川に学ぶ体験活動協議会
代表理事 久住時男 殿

令和3年度 監査報告書

令和3年4月1日より令和4年3月31日までの会計事業年度における特定非営利活動法人川に学ぶ体験活動協議会の計算書（財産目録・貸借対照表・収支計算書及びこの計算書作成の過程で作成される、仕訳帳・勘定元帳並びにそれらの根拠たる証憑類）を監査した結果、いずれも特定非営利活動促進法第5条及び第27条に則りまた公益会計基準に準拠して適切に処理され作成されていると認めます。

また、業務の執行についても適切に行われていると認めます。

以上

令和4年 5月15日

監事

吉野 英夫  印

田村 祐司  印